

なり装具歩行も困難性を増し行動の制約をつよくうける時期に相当する。しかも側弯の進行は加速度的である。Y-Gプロフィール型はC→E、B→C→E、Aのまま、Aに移行するものなどまちまちであった。(図2)

側弯非進行例でもE→B、B→E、C、Eのままといった種々の様相がみられ一様の傾向が見出せなかった。(図3)、障害度とY-Gプロフィール型との間にも関連性がつかめなかった。この事実に関してはすでに歩行不能という心理的適応を経て良い防衛機制が生れたこと、日常の積極的活動(自治会、生徒会、サークル活動、遊び)による支え、学習、教育による知的防衛機制の発展などの関与が考えられる。

今回、側弯という身体的条件とY-Gプロフィール型とを検索した結果、側弯という尺度をもって性格の変化をみることの困難な手段であることが知らされた。しかし、習慣的姿勢や側弯と心理的な問題については無関係とは考えられないので今後更に追求してみたい。

5. PMD患者(児)の脊柱変形、その発生原因の究明及び予防対策

国立療養所刀根山病院

奥田 勲 膳 棟 造

〔目 的〕

PMD病棟入院患者、児の脊柱変形の現実はいく。脊柱変形パターン分類のこころみ。及び各パターンにある人達の脊柱変形の経時的変化とその要因の究明。

〔対象と方法〕

47名(全員男性、1名W・H病以外はPMD-1名F S Hタイプ以外 Duchenne タイプ)。全脊柱2方向X線撮影を坐位でおこない、そのフィルムをもとに、

- (1) Cobb 法にて lateral angulation (L・A)
- (2) Wilkins らの Kyphotic index (K・I)
- (3) Nash, Moe による Rotation (Rot)
- (4) Pelvic Obliquity (P・O) を測定する。

〔結 果〕

平均年齢は13.8才(8~23)で、4名がその後死亡している。-1名は急性胃穿孔、他は呼吸

不全一。歩行していたもの8名(平均11才)、車イス使用39名(平均14才)。47名中3名のみがL・Aが0で、他の44名中I群(SRS)19名、2群以上32名であった。(152度~W・H病、97度~PMDを最大とした)歩行可能8名の平均L・Aは14.4度であり、うち16才の人はダブルカーブ(胸椎右25度、腰椎左25度、Rot・+)を示し、時々転倒するが歩行を続けていた。11才以下、12~14才、15~17才、18才以上で側弯の分布を見るとピークは15~17才(平均51度)であり18才以上では側弯の平均度はそれ以下を示した。変形のパターン分類を、I群(L・A \leq 20度、K・I<10)、II群(L・A \leq 20度、K・I<10)、III群(L・A \geq 21度、K・I<10)、IV群(L・A \geq 21度、K・I \geq 10)、V群(L・A<31度、K・I>11)等をメルクマールとしておこなった。

なお、V群については、15才以上という年齢のファクターも含めた。平均年齢は、I群11才、II群10才、III群15才、IV群14才、V群17才であった。その後昭和53年1月に検討しえた13名について、51・4との比較をして見ると、I群5名では著明な変化なく、III群3名については変形増悪が著明であった。更に、IV群5名については、13才の人に軽度増悪を見るが、他の4名には殆んど進行は見られないという結果を得た。

〔考 察〕

諸家の報告で共通して云えることは、①変形が漸次増強するものと②わずかな変形で進行が殆んど見られないものという様にPMD患者・児の脊柱変形は分かちうるということである。又②については「前弯の合併」「脊柱筋群の拘縮」「stiff spinesの形成」「extended spines」などと連関したものと考えられる。今回の観察でも、歩行可能な人達にあっても平均14度の側弯が見られるのである。他面16才でダブルカーブの人の様に歩行、起立の脊柱変形への良い影響を示し又、ダブルカーブが変形進行という点で良好さを示さす様である。別の10才、歩行中の人ではすでに24度、K・I 7.7、Rot +の変形が観察される。車イス使用者でも、変形増悪の見られるものと、殆んど見られないものがある。年長者が必ずしも脊柱変形が強いとは云えない事からも、個別的な、姿勢、拘縮-軸足の問題、骨盤傾斜、歩行・起立能力と期間などが、各実体の脊柱変形のパターンを規定して行く様に思われるのである。III群の検討で-それは、Kyphoscoliotic spinesと云われる-著明な増悪を見ること。更にII群→III群という経過をとるのか、その要因は何か。IV群はいかに形成されるのか、又その予後は。等々今後それらにからむ要因の検討と合わせ進めて行かねばならない。各パターンのクライテリアの再検討も必要であろう。

↓
検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります
↓

〔目的〕

PMD 病棟入院患者、児の脊柱変形の現実をあく。脊柱変形パターン分類のこころみ。及び各パターンにある人達の脊柱変形の経時的変化とその要因の究明。